

経済学部

学校推薦型選抜問題 (小論文)

2025 年 11 月 23 日(日)

(9 : 30 ~ 10 : 30)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は 6 ページ、解答用紙は 1 枚です。
3. 答案作成にあたっては、注意事項を必ず読んでください。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
5. 解答には筆記用具、消しゴム以外のものを使用してはいけません。
6. 解答用紙の※印欄には、何も記入してはいけません。
7. 問題冊子は持ち帰ってください。

問題 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

イノベーション^{注1}には創造と破壊の両面があります。それぞれの影響は時間差で出てきます。この時間差が抵抗を生みます。

イノベーションを生み出すことによって、真っ先に恩恵を得るのはそれを生み出した企業家とそこに投資をした投資家です。しかし、企業家や投資家、あるいはその組織が手にする利益は、後続企業の模倣やさらなる創造的破壊によって、長期的には消失します。

イノベーションのより大きな恩恵は、生産性の向上による経済成長や、新しい産業や雇用の創出、生活の質の向上などです。紡績機、屋内配管、自動車、ワクチン、半導体、インターネット、新幹線などを思い浮かべてみても分かります。それらを生み出した人が手にした利益よりも、その後に私たちが得た恩恵の方がはるかに大きいのです。

恩恵は経済成長を通じて、広く社会に行き届くのです。ただ、その恩恵が全体に広がるまでには時間がかかります。なぜ、時間がかかるのでしょうか。

まず、新規性の高いイノベーションであればあるほど、それが生み出された当初は粗雑なものです。これが洗練されていくことによって、使えるものになっていきます。累積的なイノベーションが積み重ねられるのには時間がかかります。

また、新規性の高いイノベーションであればあるほど、補完的な制度の整備が遅れます。例えば、クルマは開発されてからすぐに、大きな経済的な価値を生み出したわけではありません。交通ルールの整備や高速道路が必要です。ガソリンスタンドやスタンドまでガソリンを運ぶサプライチェーンだって要ります。メンテナンスもしなければいけません。そのためのエンジニアも必要です。自動車保険も自動車ローンも大切でしょう。このような制度やサービスが整備されるには、時間がかかるのです。また、クルマを使った新しい産業(例えば、輸送業やタクシーのサービスなど)も、クルマが生み出された次の日に出来上がるわけではありません。

そして、経済成長の恩恵は、すぐに全ての人々や地域に均一に広がるわけでもありません。短期的には、不均一に広がります。特定の産業や企業、あるいは特定の職業の人たちは大きな利益を得ますが、衰退する産業や企業、あるいは職業も生ま

れます。地域的な差も生まれます。経済成長がもたらす恩恵は、偏ることが多いのです。

その恩恵が社会全体に広がるのは、いくつかの経路があります。

まず、雇用の増加です。経済が成長すると、新しいビジネスや産業が生まれ、既存の企業も拡大します。これにより、新しい雇用の機会が生まれ、失業率が低下します。多くの人々が安定した収入を得ることができ、生活の質が向上します。

賃金も上昇します。経済が成長すると労働者に対する需要が増加します。これにより、多くの企業が優秀な労働者を確保するために賃金を引き上げます。結果として、多くの労働者の収入が増加し、生活水準が向上します。

さらに、公共のサービスだって向上します。経済成長により、国の税収が増加します。これにより、政府はより多くの公共サービスやインフラを提供することが可能となります。再分配による支援や、教育によるスキルの格差の是正、インフラの整備や地域振興策などが行われます。

経済成長は単に国の一人当たりの GDP が増加するだけでなく、それが人々の生活の質の向上にもつながります。ただ、これらが社会に広がるのには、時間がかかるのです。イギリスで産業革命が始まるのは 1700 年代中頃からです。しかし、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス のニコラス・クラフツの試算によれば、実際にイノベーションの貢献による一人当たりの GDP の伸びが見られるのは 1800 年代に入ってからだったのです。

イノベーションが破壊の側面を持つがゆえに、自分のスキルが破壊される人も出てきます。自動織機や紡績機、電話の自動交換機、郵便物の自動処理装置など、人のスキルを代替するイノベーションには枚挙に暇がありません。スキルが破壊されてしまう人の所得の低下や失業も、イノベーションのコストなのです。

イノベーションにより破壊されるコストは、スキルが破壊される人に局所的に、そして短期的に現れます。そのため、破壊的な側面が大きいものであればあるほど、既存のモノゴトのやり方で上手く行っている、あるいは新しいモノゴトにより自身のスキルや強みが陳腐化させられてしまう人や組織は強く抵抗します。

恩恵は全体に広がるけれど、損失が局所的に現れる現象は、イノベーションだけ

ではありません。多くの社会的・経済的な状況で見られます。このような時に抵抗が現れます。この背後には、恩恵を受ける人々は多数だけれども、その恩恵は一人一人にとっては小さく感じられるために、その恩恵を得るための積極的な行動を起こしにくい状況があります。一方、損失を受ける人々は少数ですが、その損害が一人一人にとっては大きいので、その損害を防ぐための行動を起こしやすいのです。

例えば、自由貿易協定は、多くの消費者にとっては安価な商品の提供という恩恵をもたらす可能性があります。しかし、国内の特定の産業や労働者には、外国からの安価な輸入品との競争による損失が生じます。このため、自由貿易協定に反対する産業団体や労働組合は、その損失を防ぐために強く団結して抗議活動を行うことがよくあります。

イノベーションに話を戻しましょう。自分の職がなくなってしまうかもしれない人々にとっては、イノベーションの恩恵よりも自分が支払うコストの方が遥かに大きいのです。

長期的には社会全体への恩恵があるとは分かっているとしても、自分のスキルが置き換えられてしまう負の影響の方が大きければ抵抗するのは当然です。スキルが破壊される人と、長期的に恩恵を受ける人は別人なのです。社会レベルで、長期的な視点に立てば、イノベーションの恩恵はコストを上回ります。イノベーションによって、確かに新しい、より生産性の高い仕事が増えます。

しかし、その職を手にするのは、通常、スキルを破壊された人ではないのです。新しいスキルを身につけるのには時間もかかりますし、多くの人にとってはそもそもそれは難しいのです。個人の時間は限られています。そのイノベーションの恩恵が自分にまでまわってくるか分かりません。恩恵があったとしても、自分が支払ったコストには多くの場合、見合わないのです。恩恵と損失の間に長いタイムラグがあるからです。

抵抗で最も有名なのは、産業革命期のイギリスのラッドライト運動です。綿工業において自動化された機械に職を奪われた熟練労働者たちが機械の打ち壊しを行いました。

現代では、さすがに、このような暴力的な抵抗は見られなくなりました。しかし、それは抵抗がなくなったというわけではありません。より静かなかたちになっ

ただけです。最初は無視から始まり、どうしても無視しきれなくなると、「使い物にならない」、「実績はあるのか」、「上手くいくか分からない」、「リスク注2がある」と言い、できるだけ導入を遅らせます。この抵抗に負けると、そもそも導入されなかったり、そのスピードが遅くなったり、骨抜きイノベーションの導入になったりします。「雇用を守る」と力強く言う経営者も、高い収益性が見込める投資機会をしっかりと見つけて(つくりだしてという言い方が正しいですが)、そこに投資をし、既存の人員の再配置をしていかなければ、それは、陳腐化したタスクに就いていた人のために、将来の高い収益性を犠牲にする意思決定をしているのと同じです。

このような抵抗に対して、「自分のことだけ考えるな」とか「スキルが陳腐化したのは自己責任だ」と責めたり、イノベーションを導入しようとする人に「抵抗勢力に負けるな」と鼓舞したりしても、それほど意味はありません。新しいチャレンジを促し、抵抗を減らす上で大切なのは、リスクのシェアの仕組みです。

リスクのシェアは破壊される人にとって大切です。自分の生活を成り立たせている基盤を分散的にしてリスクの共有ができれば、安定性が増すからです。これまでは国や企業がリスク・シェアの中心的な役割を担ってきましたが、その機能が弱まり、個人がそのリスクを負うようになってきています。

出典：清水洋(2024)『イノベーションの科学』中公新書。一部改変。

注1) イノベーション：ここでは「経済的な価値をもたらす新しいモノゴト」を指す。経済的な価値を生み出すという点と、新しいという点の二つがそろってイノベーションとなる。

注2) リスク：望ましくないできごとが将来に起こりうる可能性。

問 1 上記の文章を読んで、300 字以内で要約しなさい。

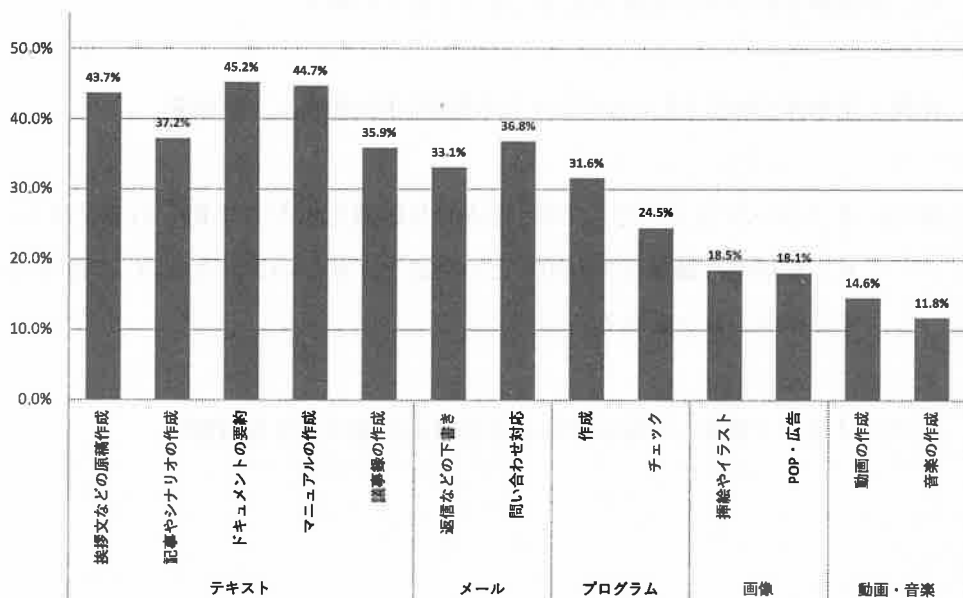
問 2 上記の文章と次の(資料 1)・(資料 2)を読み、日本の労働人口の課題を踏まえ、生成 AI が社会に及ぼす影響やそれへの対策について、自身の考えを 400 字以内で述べなさい。ただし(資料 2)の引用は必要最小限にとどめること。

(資料 1) プログラミングのコードや文章、音声、画像などを生み出せる人工知能は生成 AI と呼ばれています。生成 AI は、ホワイトカラーやクリエイティブな仕事に就く人のスキルを代替するのではないかという懸念が広がっています。生成 AI がどのような変化をもたらすかの考察はあくまでも予測になりますが、これまでの歴史から考えると、新しい技術による代替は起こると考えるのが妥当です。

出典：清水洋(2024)『イノベーションの科学』中公新書。一部改変。

(資料 2) 生成 AI の活用可能性

質問：今後、どのような業務で生成 AI が活用できると思いますか。



出典：NRI(2023)「AI の導入に関するアンケート調査」を基に作成。